

実態調査報告書

調査実施期間 4/20～6/15（最終 7/27）

総回答校数 96（本校 89、本校・分校 2、分校 5）

提出率 100%

2020 年 10 月 12 日

全ろう P の現状と課題を知るための実態調査

目次

はじめに	-----	1
1. 令和2年度の基礎情報について		
(1) 会の名称		
表1 会の名称	-----	2
(2) 幼児児童生徒数、世帯数、教員数		
表2 会員数、教員購読数他	-----	2
図1 世帯数	-----	2
図2 規模別学校数	-----	2
図3 子供の人数と世帯数、教職員の購読者数と非購読者数	-----	2
課題と工夫1	-----	3
(3) 役員の名称と人数		
表3 役員数	-----	3
図4 学校規模と会員に占める役員の割合	-----	3
図5 役員の名称	-----	4
図6 部・委員会の名称	-----	4
課題と工夫2	-----	4
(4) PTA会費		
① 年額の割合	図7 会費年額の割合 -----	4
② 入方法	図8 納入方法 -----	4
③ 会費の感想	図9 会費の感想 -----	5
課題と工夫3	-----	5
(5) 加入状況		
表4 地区P全ろうP加入状況	-----	5
表5 他団地の名称	-----	5
課題と工夫4	-----	6
(6) 学級数、学級委員数		
表6 学級数と委員数	-----	6
課題と工夫5	-----	6
(7) 出張旅費		
図10 出張旅費	-----	7
課題と工夫6	-----	7
2. 各学校 P T A の運営について		
(1) PTAにかけける年間日数		
図11 PTAに関わる年間日数	-----	7
課題と工夫7	-----	8
(2) PTAに関係して学校に出向く回数		
図12 PTAに関係して学校に出向く回数	-----	8
図13 学校に出向く回数	-----	8
課題と工夫8	-----	9
(3) PTAに関係して学校以外に出向く回数		
表7 学校以外に出向く回数	-----	9
図14 PTAに関係して学校以外に出向く回数	-----	10
表8 その他	-----	10
課題と工夫9	-----	10
(4) 連絡網		
図15 連絡網	-----	11
表9 その他	-----	11
課題と工夫10	-----	11

目次

(5) 学校(PTA担当者他)から保護者への連絡方法		
図16 学校から保護者への連絡方法	-----	12
表10 その他	-----	12
課題と工夫11	-----	12
(6) PTAからの情報提供		
① PTAだよりなどの発行回数	図17 PTAだよりなどの通信発行回数	----- 13
② 通信の分量	図18 通信はA4判何枚分か	----- 13
表11 PTAだよりなどの内容	-----	13
③ 記事の工夫	表12 記事の内容で工夫しているところ	----- 14
課題と工夫12	-----	15
(7) 学校(PTA担当者)から保護者へのお知らせ		
図19 学校からのお知らせ手段	-----	16
表13 その他	-----	16
課題と工夫13	-----	16
3. 地区研修会について		
(1) 規模～期日、会場、参加状況、総経費、謝礼の決め方		
表14 会場	-----	17
表15 謝礼	-----	17
表16 参加状況・経費	-----	17
課題と工夫14	-----	17
(2) 参加者の主な感想		
表17 地区研修会参加者の主な感想	-----	18
(3) 主管校として工夫したところ、感想		
図20 テーマ設定時に参考にしたこと	-----	19
課題と工夫15	-----	19
(4) テーマを設定する時に参考にしたこと		
表18 テーマ設定時に参考にしたこと	-----	19
(5) テーマを設定した理由		
表19 テーマを設定した理由	-----	20
(6) 他地区のPTA研修会について		
図21 他地区の研修会について	-----	20
4. PTA活動をしていく上で大切にしていること		
図22 PTA活動をしていく上で大切にしていること	-----	20
表20 代表的な意見	-----	20
5. 学校に期待すること		
表21 学校に期待すること	-----	21
6. 併置によるPTA活動上のメリット		
表22 併置によるPTA活動上のメリッ	-----	21
7. 併置によるPTA活動上の不便さ		
表23 併置によるPTA活動上の不便さ	-----	22
8. PTA活動を行う上で困っていること		
表24 PTA活動をしていく上で大切にしていること	-----	23
9. PTA活動を進めていく上で工夫・改善したこと		
図23 PTA活動をしていく上で大切にしていること	-----	23
表25 特徴的な工夫・改善	-----	23
表26 PTA活動を進めていく上で工夫・改善したこと	-----	24

はじめに

はじめに

全国ろう学校PTA連合会 会長 横田志津

子供の人数が減少していると言われていています。しかし、そのことによる各学校のPTA（以下、各単P）活動への影響について、どのような課題がありどのように対策しているか把握している訳ではありませんでした。そこで、これらの現状を知るために、アンケート形式による実態調査を行い、各単Pが課題を解決していく際に手掛かりとなる資料を作成することにしました。

調査期間は4/15～6/15を予定しましたが、各単Pとも新型コロナのためにPTA総会を開けない状況が続いたので、調査期間を7月下旬まで延長して、本会に加入している全91校に加えて5分校から回答していただきました。

調査では、各単Pの課題と工夫についても記述していただきましたが、それぞれの事情が少しずつ違っているので、回答を大括りにせず、できる限り記述された通りに表しました。

会員数の減少は会費の収入減に繋がります。このため、いただいた報告の中には、いろいろな事業や活動を見直した結果、研修会への参加を取り止めるなど活動規模を縮小せざるを得なかったというものもありました。

また、小規模校化することにより役員のPTAに係る負担が増え、仕事をしているなどご家庭の事情からPTA活動への参加が疎かになってしまうという回答もありました。

しかしながら、たとえ小規模校化したとしても、子供たちのためにより良い教育を受けさせたいとする気持ちまで小さくすることではありません。

本報告書では、役員が小人数化してもIT化して活動を停滞させないこと、仕事場所を学校に固定しなければ分散化できること、情報共有の仕方を工夫すること、活動内容や方法を精査して自助努力すること、お茶出しをやめて経費と労力を節減すること等々、工夫し改善したことを可能な限り紹介させていただきました。

本会においては、教職員の会誌・会報購読料による支援を受けたとしても収入減は避けられず、短中期的には事業を見直していく必要性も出てきています。

新型コロナに伴う新しい生活様式の一環としてリモートワーク・会議等が提案され、日本だけでなく世界中で実践されました。これに関連して、本調査の回答の中に、予算の節約や活動の負担感を減らすために、リモート会議の実施について記述されていました。お蔭で、前述の新たに生じる課題に対する解決策を本報告書中に見つけることができました。

本報告書には、各単Pが抱える課題を解決するための回答やヒントがたくさんあります。今後、PTA活動の見直しを考えていく単Pにおかれましては、自校に合ったものまたは求める回答に近いものをヒントにして、無理のない取組に繋げていただければ幸いです。

報告書のp21に学校に期待することを載せました。私たちは、聴覚障害教育を行う特別支援学校が、聞こえないまたは聞こえにくい子供たちにとって大切な居場所であり、保護者にとっても心の支えとなる場所であり続けることを願い、協力してまいりたいと思います。

おわりにあたり、コロナ禍にあったにもかかわらず回答していただいた皆様、また、実態調査をまとめるにあたりご指導をいただいた関係の皆様にご心から御礼申し上げます。

令和2年10月

1. 令和2年度の基礎情報について

1. 令和2年度の基礎情報について

(1) 会の名称

表1 会の名称

総回答数91	学校数
PTA	70
父母と教師の会	6
父母と先生の会	1
保護者と先生の会	0
保護者と教師の会	1
保護者と教職員の会	1
きずなの会	1
多摩愛育会	1
朗和会	3
育友会	1
親と先生の会	1
なし(学校名)	5

(2) 幼児児童生徒数、世帯数、教員数

表2 会員数、教員購読数他

幼児生	会員数	割合
5,257	4,928	33.4%
教職員	購読数	
6,646	2,221	
教職員数: 全国聾学校長会調べ		

図1

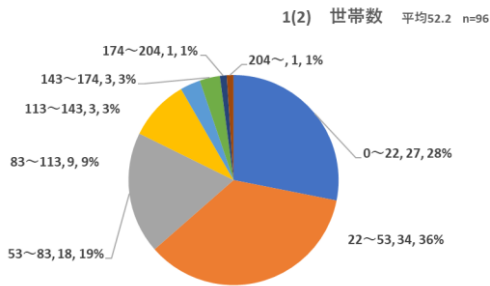


図2

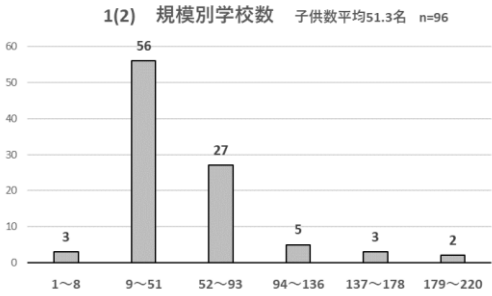
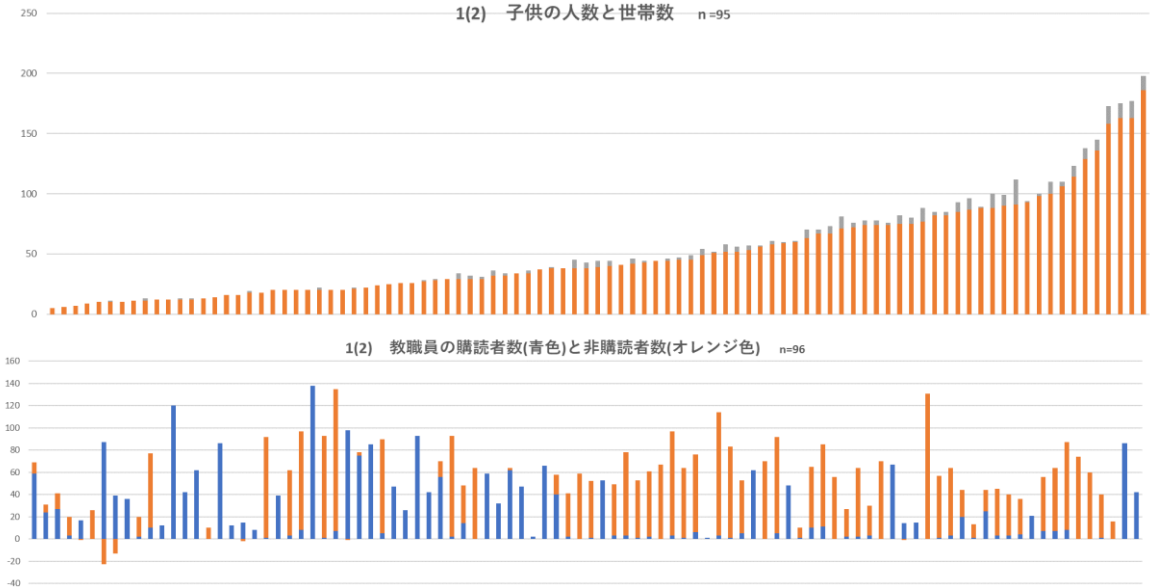


図3 上:子供の人数と世帯数(オレンジ色の部分) 下:教職員の購読者数と非購読者数



1. 令和2年度の基礎情報について

課題と工夫 1 1(2) 幼児児童生徒数、世帯数、教員数

課題 子供数減少、会員数減少 (有効回答数58/60)

活動が縮小・困難になってきている

- ①活動内容・規模の縮小化
- ②活動のマンネリ化
- ③共働き保護者の増加と参加者の減少
- ④教員数の減少

役員の選出が難しくなっている

- ①役員の負担の増加
- ②役員のなり手がいない
- ③役員の選出方法

会費収入が減少

- ①予算配分の見直し
- ②会費収入の不足

その他の課題

- ①教育相談が転入学等に繋がらない
- ②PTA加入を拒否する者がいる
- ③知的の在籍数差が大きく相互理解が難しい

工夫 軽減するために

(有効回答数38/39)

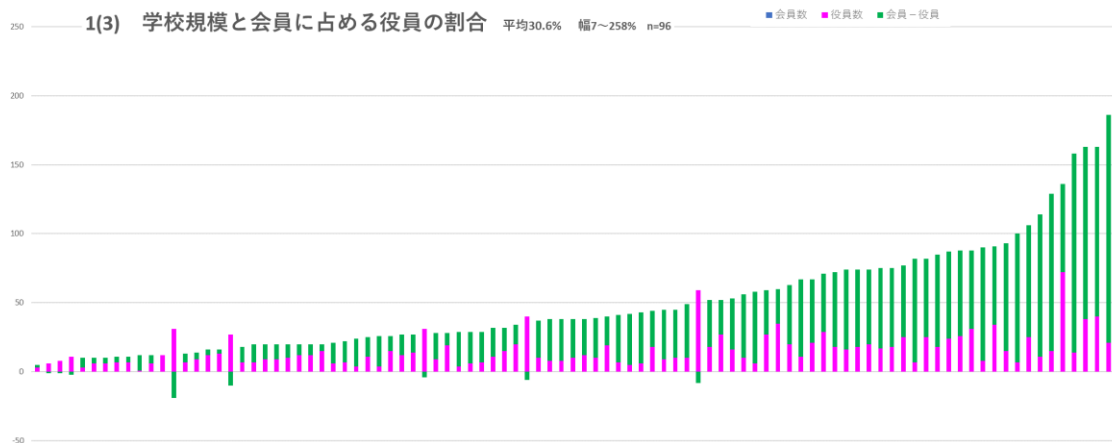
- ・学校行事に合わせてPTA行事を設定する
- ・全保護者が活動に取り組めるように工夫する
- ・行事を広報、学習会などで親睦を深める工夫
- ・学校経営上の問題だが会員にするのは困難
- ・参加できる時間にできる業務を分担する
- ・輩出学部を決め、推薦委員会を早めに立ち上げる
- ・隣接学年と合同で役員決める
- ・活動内容に合わせて予算組を変更する
- ・会費の値上げ、節約の励行
- ・学校教育の理解啓発と周知
- ・校長が意義を説明する
- ・話し合いを重ねる

(3) 役員の名称と人数

表3 役員数

	会長	副会長	書記	会計	監査	役員計
平均	1	2.8	1.1	1.4	1.8	15.7
最大	1	6	5	4	4	72
最小	1	1	0	0	0	1

図4 学校規模と会員に占める役員の割合



1. 令和2年度の基礎情報について

図5 役員の名称

1(3) 役員の名称

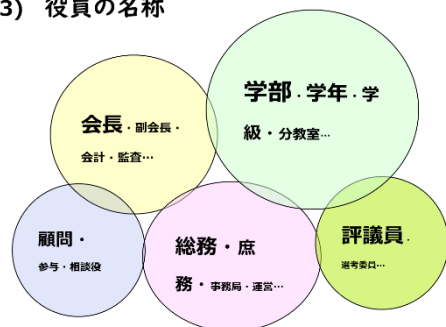
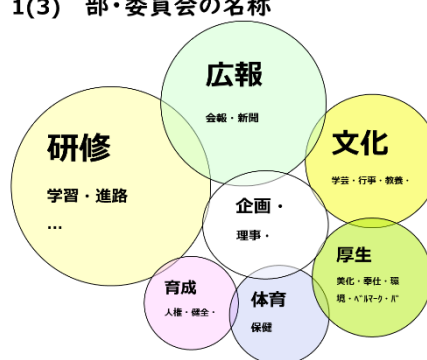


図6 部・委員会の名称

1(3) 部・委員会の名称



課題と工夫 2 1(3) 役員の名称と人数

課題 会員数減少 (有効回答数65/66)

役員の問題

- ① 役員選出が困難
- ② 連続して役員になる
- ③ 負担が大きい

会員の問題

- ① 仕事をしていて、活動参加者の固定化 *
- ② 部長を部内互選で選出する *
- ③ 兄弟兄が小さく参加できないケースがある

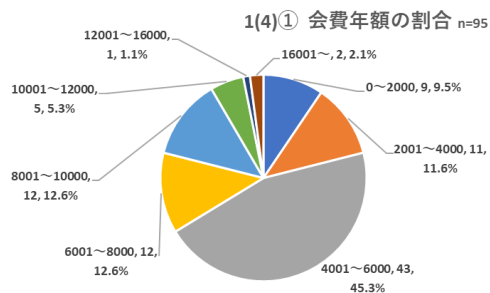
工夫 活動のしやすさ (有効回答数46/50)

- ・選出ルール、公平に分担する
- ・連続して担わない、粘り強く協力依頼する
- ・仕事量を減らし、分担を工夫する
- ・会則に任期を明記し、多くの者が役員になる
- ・専門部の廃止、役員構成人数を最小限にする
- ・参加しやすい環境、IT化等を整備する
- ・学校職員がサポートする
- ・行事の精選、活動日を工夫して無理なく活動 する
- ・お願いする
- ・会員全員で取り組む
- ・幼～高まで縦割りにして繋がりを持てるようにする
- ・楽しい雰囲気です活動する

(4) PTA会費について

① 年額

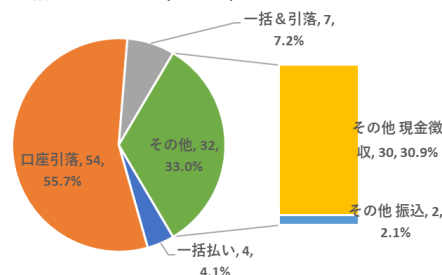
図7 会費年額の割合



② 納入方法

図8 納入方法

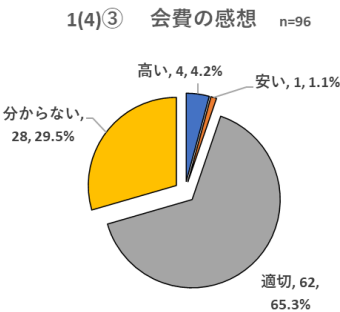
1(4)② 納入方法 n=97(複数回答)



1. 令和2年度の基礎情報について

③ 会費の感想

図 10



課題と工夫 3 1(4) PTA 会費について

課題 会員が少ないこと (有効回答数31/37)	工夫 現状を踏まえて適正化する (有効26/31)
会への影響 ①分担金の負担が大きい ②繰越金が増える ③予算編成が難しい	・特別会計で多額の出費に対応する ・活動内容や会費を検討する ・見積み合わせをして支出の削減に努める ・事業をスリム化する
会員への影響 ①会費が高いと感じる方がいる ②家庭事情を考えると値上げできない ③加入拒否する保護者の負担をどうするか	・2人以上在籍の場合、下学年分を半額にする ・徴収金をダブルチェック、口座引き落としに ・学部の状況に応じ集金方法を手渡しにする ・根気強く説得する
その他 ①未納の方への対応 ②現金徴収の場合	・子供たちに還元できるようにする

(5) 加入状況

表 4 地区 P 全ろう P 加入状況

地区P連	全ろうP連
96/96	96/96
加入率100%	

表 5 他団体の名称

都道府県聾(ろう)学校PTA連合会
同特別支援学校PTA連合会
同(公立)高等学校PTA連合会
〇〇市特別支援学校PTA連合会
全国ろう学校PTA連合会
〇〇地区ろう学校PTA連合会
〇〇県盲ろう支援学校PTA連合会
〇〇私中高協会第〇支部父母の会
……振興会、(連絡)協議会、

1. 令和2年度の基礎情報について

課題と工夫 4 1(5) 加入状況

課題 分担金が苦しい、参加しにくい他 (41/45)

- ①遠方の会議や研修に参加しにくい
- ②加入している会が4種もあり分担金が苦しい
- ③会員数が少なく分担金が苦しい
- ①手話通訳予算が不足した
- ②上位加盟P連や他団体との関係が不明
- ③全体への周知
- ①所属することで横の繋がりができる
- ②会議に参加する役員の負担
- ③限られた時間で効率的に行う

工夫 お金・活動・労力の負担を軽減 (24/28)

- ・出席者や出席人数を精選する
- ・会費を値上げして予算確保した
- ・できるだけ節約する
- ・関係性や金銭の流れの見える化を図る
- ・参加呼びかけ、参加案内配付、役員会での報告
- ・利点が多く課題と感しない
- ・何とか対応しているが…
- ・グループワークで要望事項の優先順位をつけていく
- ・無理に参加しないくてもいいとした

(6) 学級数、学級委員数

表6 学級数と委員数

		91		88		85		63		19		55	
		小		中		高		専		計			
		学校計	委員数	学校計	委員数	学校計	委員数	学校計	委員数	学校計	委員数	学校計	委員数
MAX		18	71	31	115	15	50	19	60	7	6	49	186
MIN		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
平均		3.4	3.1	7.3	5.8	4.0	3.5	5.7	4.3	1.1	0.6	18.6	16.9

課題と工夫 5 1(6) 学級数、学級委員数

課題 会員減少と負担の増加など (有効回答数57/57)

- ①一人学級だと毎年委員になる
- ②一人学年は毎年役員で負担が大きい
- ①学級委員を出せない
- ②役員体制が規模しい
- ③毎年役員が当たる保護者の負担増
- ①会員減少を考慮したPTA活動の実現
- ②学級数が少ない(少子化)
- ①役員を引き受ける人が少ない
- ①子供数減少のための対策

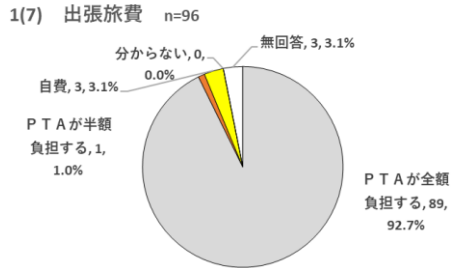
工夫 現状の改善、実態に合わせるために (有効52/55)

- ・一人学級保護者は隔年で役員になる
- ・各学年から役員を選出しない
- ・学級でなく学年で委員を決めている
- ・他の学級と合わせて学級委員を出す
- ・役割分担を見直し、保護者の負担を軽減させた
- ・学級委員制度を廃止した
- ・保護者の負担を減らすため学部評議員をなくした
- ・専門部を統合した
- ・役員の定数を減らした
- ・兼務を基本とし委員数を減らした
- ・会則を変更した

2. 各学校 P T A の運営について

(7) 出張旅費

図 10



課題と工夫 6 1(7) 出張旅費

課題 遠方の場合負担が大きいなど (有効24/34)

- ①出張者が複数の時
- ②旅費支出の負担が大きい
- ③会場が遠方の場合、支出できない時がある
- ④旅費が少なく遠方への参加ができない
- ①財源の確保
- ②遠方への出張は預かり保育を必要とする
- ③宿泊を伴う出張、子供の関係で出席が難しい
- ④ホテル代は時期や場所により上限を大幅に超える
- ①抜本的な改革!!!
- ②研修会など参加希望者が少ない

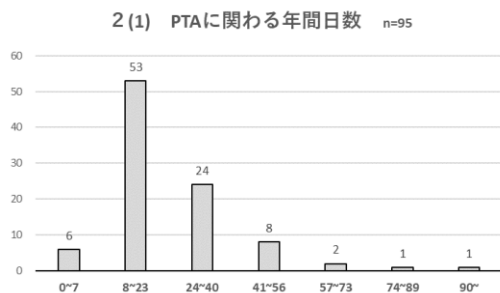
工夫 現実的・旅費の適正化他 (有効23/30)

- ・1名の参加とし旅費を半額にする
- ・限られた予算から捻出する
- ・研究会等参加人数を厳選・調整する
- ・早期の予約、ネット等を活用して予約する
- ・できるだけ車に乗り合いで出張する
- ・距離、時間、家庭の都合等を無理のない範囲で出席する
- ・会費の値上げ
- ・オンライン会議を進める
- ・仕方がないことだと思う
- ・交通費は全額負担として出席しやすいようにしている

2. 各学校 P T A の運営について

(1) P T A にかかる年間日数 (関わった日数で、少ない時間でも 1 日とカウントする)

図 11 PTA に関わる年間日数



2. 各学校PTAの運営について

課題と工夫 7 2(1) PTA にかかる年間日数

課題 日数の差・比重・負担が大きい (有効43/45)

- ①同じメンバーが活動・参加している
- ②保護者が集まりにくい
- ③遠方からの人も多い
- ①家庭の事情で時間・参加が限られている
- ②仕事を持っている人が殆どで調整が難しい
- ③共働きの家庭が増えて、仕事を休めない
- ①PTA手話学習会が32回
- ②専門部により会議回数が違う
- ①並置校なので聴覚単独で動くことが難しい
- ②保護者主体で活動してほしい

工夫 経費・負担を減らす (有効回答数42/42)

- ・仕事を分散・分担する
- ・一人一役にする
- ・動員がかかる場合事前に調整して公平負担にする
- ・他の保護者へ声掛けする
- ・参加しやすい研修等を設ける
- ・寄宿舍帰省日に行事・活動日等を設ける
- ・授業参観日や担任面談日に会を設定する
- ・学校行事と日程が重なるようにする
- ・子供の送迎時に打合せする
- ・打合せ等を同日設定、有効に活用する
- ・取り組みやすい日を設定する
- ・来校時に連携や各種活動を設定する
- ・各自の仕事の調整をお願いする
- ・平日に来校しないように効率的に準備を行う
- ・コミュニケーションをとり必要な段取りを事前に行う
- ・会議を必要最低限にする
- ・来校の負担を軽減する
- ・委員会数を減らす
- ・過去、業務マニュアルを活用する
- ・保護者メールを有効に活用する
- ・書面やメールで打合せする
- ・グループラインやSNSで打合せする
- ・打合せはICTを活用し学校に来なくても協議できるようにする

(2) PTA に関して学校に出向く回数

図 12

2(2) PTA に関して学校に出向く回数 N=95

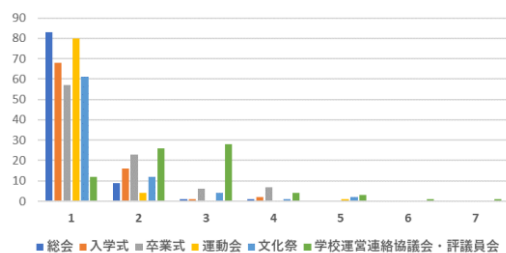
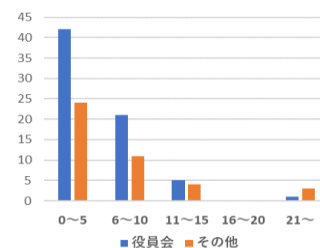


図 13

2(2) 学校に出向く回数 n=95



2. 各学校PTAの運営について

課題と工夫 8 2(2) PTA に関して学校に出向く回数

課題 集まるのが難しいなど (有効回答数32/37)

- ①全県学区のため集まるのが難しい
- ②夜の会合が多く時間帯で集まるのが難しい
- ③出向く日が多く仕事を休みづらい
- ④仕事をする保護者が多いのでPTA活動に参加しにくい

- ①学校祭準備の時は会議等が多い
- ②日程調整が難しい
- ③出向く日が2・3月に集中し仕事を調整する必要がある

- ①交通費をPTA会費から出し**高額出費**になる
- ②保護者の行事に対する**関心が低い**
- ③**参加者が少ない**

工夫 集まり・出向く回数を減らすなど (37/39)

- ・参観日に合わせて会や廃品回収を行う
- ・寄宿舎帰省日に行事を設ける
- ・他の分掌行事等と日をかぶせる
- ・会報紙編集等は、幼稚園の会員にお願いする
- ・学校の行事と保護者会を同じ日程にする
- ・登下校送迎時、会員が会う際に打合せを行う
- ・学習会、懇親会、学校行事、式典の後に開く
- ・仕事をしている方が多いので月曜日開催にしている
- ・保護者間で調整する
- ・事前の調整を行う
- ・副会長の中に会長補佐役を決め代理してもらう
- ・会議等は必要最低限にする
- ・事前に都合を聞き誰かが参加するよう調整する
- ・会議を誌上実施にして負担感を減らす
- ・集まる日以外はここに(分担)作業する
- ・前年度委員長からの引継ぎと事前の役割分担をしっかりと行う
- ・早目に行事や役員会等の日にちを連絡する
- ・あらかじめ年間予定を示す
- ・役員会の日程を年度初めに確認する
- ・運動会と文化祭は隔年開催にする
- ・学級委員が出席できないときは学年内で代理する

(3) PTA に関して学校以外に出向く回数

表 7 学校以外に出向く回数

	地区P連 研修会	全ろうP連 役員会	要請活動	その他
回答校平均回数	2.4	1.7	3.6	3.2
回答校数	86	18	25	42

2. 各学校PTAの運営について

図 14

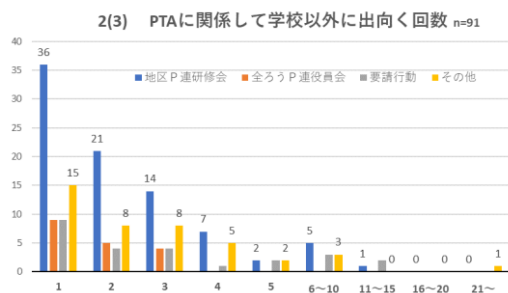


表 8 図 14 のその他

都道府県聾学校PTA連合会
同特別支援学校PTA連合会
同特別支援学校保護者連絡会
同聴覚障害者センター運営会議
同高等学校PTA協議会
同ブロック会長会
同PTA役員会
〇〇地区聾学校PTA連合会
特別支援教育振興大会

課題と工夫 9 2(3) PTA に関して学校以外に出向く回数

課題 参加が厳しい・負担が大きい他 (35/38)

- ①仕事をしている保護者が多く平日日中は参加が厳しい
- ②忙しい時期が重なりなかなか集まらなかった
- ③自校の活動が忙しく外部にまで手が回らない
- ④遠方での会議が多く出席が難しい
- ⑤遠方での会議は旅費がかかる
- ⑥遠方の会場は時間的な負担が大きい
- ⑦小さなお子さんがいる方は出張に行きにくい
- ⑧知的部門高等部は一人の役員負担が大きい
- ⑨加盟する団体が多い
- ⑩特定の方に依頼することが多い

工夫 軽減・節約・方向性など (有効30/33)

- ・わかる範囲で早めに日程を知らせる
- ・年間予定を教えてもらい先に日程を確保する
- ・役員全体の中で参加者を調整する
- ・役割を分担する
- ・無理に参加しなくてもいいということにした
- ・他学部保護者にも代理して参加してもらう
- ・参加可能な保護者を募る
- ・できるだけ都合をつけていただくようお願いする
- ・今年、リモート会議で、旅費が節約できた
- ・総会等の開催見送りを参考にして今後の在り方を見直す
- ・参加する会を精選する
- ・地区P連研修会の内容を全道的なPTA大会分科会に統合した
- ・打ち合わせなどを同日にし設定して仕事を休まないようにする
- ・アンケートを取りより良い時間を設定する
- ・メールやラインを活用し情報共有で済ませた

2. 各学校PTAの運営について

(4) 連絡網

図 15 連絡網

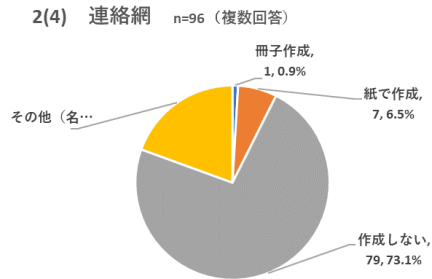


表 9 図 15 のその他

Faircastメール送信2
マチコミメール2 連絡網サービス
ミッタメールを利用
はなまる連絡帳 緊急連絡配信
らくらく連絡網 Google
LINE11
メール15

課題と工夫 10 2(4) 連絡網

課題 個人情報、一斉メール登録など (18/24)

- ① マチコミメールへの登録は任意で全員が登録されていない
- ② 全会員へ連絡したいときは学校一斉メールをお願いする
- ① 個人情報保護で紙面化できない
- ② 連絡がつきにくい
- ③ 保護者の連絡先は配付しない
- ① 保護者同士が直接連絡を取ることが難しい
- ② 加入していない数名の保護者へは電話かFAXによる連絡

工夫 全員に連絡するための手段など (33/38)

- ・マチコミメール未登録者は電話やFAXで連絡する
- ・年度初めに新転入生を含め全会員をお願いする
- ・連絡が取れない場合は個別に電話とラインで連絡する
- ・個人情報の観点で学校一斉メールを活用する
- ・非常連絡メールシステムを使う
- ・メール連絡網に登録してもらい一斉配信する
- ・不着アドレスが多いので6月にリセットする
- ・保護者打合せの際にライン交換する
- ・急ぐときは代表者から保護者同士グループラインに連絡する
- ・役員間ラインは学校は関知しない
- ・ラインに入らない保護者は担任から安心安全メールで連絡する
- ・ライングループチャットで密に情報交換しあう
- ・ラインノートで内容を残し、既読で確認する
- ・多数が利用しているアプリの利用を依頼する
- ・PTAで緊急時用の携帯電話を運用している
- ・保護者の繋がりから連絡先をたどる
- ・連絡網はないが保護者同伴通学なので校内でコミュニケーション
- ・事務局より情報発信できる状況を確認する
- ・会長から各学部ごとに、各学部から全員に連絡が届く
- ・工夫できる方法がない

2. 各学校PTAの運営について

(5) 学校（PTA担当者他）から保護者への連絡方法について

図 16

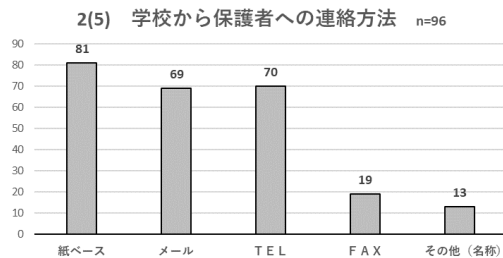


表 10 図 16 のその他

一斉連絡用のアプリを利用
 学校携帯及びFaircast
 39メール(google)配信サービス
 kintone 情報共有システム
 学校安心メール2 情報共有システム
 マチコミメール2
 メールメイト 携帯配信システム
 ホームページ
 メール
 LINE3
 SMS
 連絡帳へ記載する。

課題と工夫 11 2(5) 学校から保護者への連絡方法

課題 情報が伝わらないなど (有効回答数21/25)

- ①メールアドレス未登録家庭への連絡方法が家庭により異なる
- ②緊急の場合の連絡方法がない
- ③なかなか保護者と連絡が取れない場合がある
- ④配付物を子供が渡さず伝わらないことがある
- ⑤伝わっているのか分からない

工夫 確実に伝える仕組みなど (有効回答数25/28)

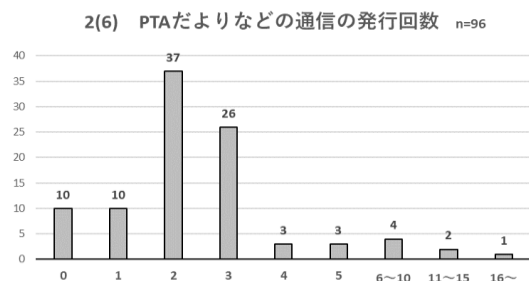
- ・アドレス登録への理解を図る
- ・年度初めに会員全員に案内する
- ・緊急度により方法を使い分ける
- ・学校の一斉メール及び学校ホームページで保護者に連絡する
- ・学校安心メールの効果的な活用を工夫する
- ・学級担任に紙のメモを渡す
- ・オンライン学習支援サービスを連絡ツールとして活用する
- ・家庭の状況に応じて、適した連絡方法を選択
- ・管理職、PTA担当教員、PTA役員が参加するグループウェアを作成した
- ・今年度より「オクレンジャー」使用
- ・不着アドレスが多いので、毎年6月にリセットし、再登録する
- ・急ぐときは担任から連絡を取ってもらう
- ・担任を通して周知してもらう
- ・一斉メール配信機能及び開封確認機能を利用する
- ・連絡袋に押印してもらい、確実に分かったことを確認する
- ・大切な連絡の確認はメール後にさらに電話で確認する
- ・PTA会費で購入したスマートフォンを運用する
- ・漢字が読めない、電話はできないという場合には、振り仮名をふる
- ・整理された情報の提供と、わかりやすい文書構成
- ・週末に配付したり早めに配付する

2. 各学校PTAの運営について

(6) PTAからの情報提供

① PTAだよりなどの発行回数

図 17



② 通信の分量

図 18 通信の分量

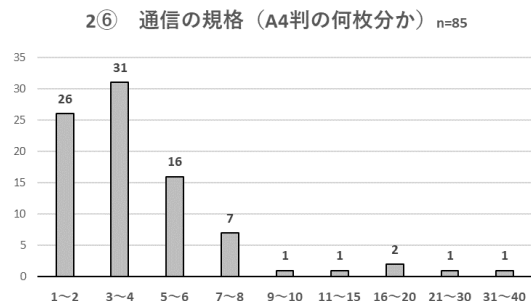


表 11 2(6) PTAだよりなどの内容

2⑥2 通信内容 PTAだより・お知らせなどの内容

(有効回答数82/82)

PTA活動	委員会報告	行事と子供の様子	保護者の知りたいこと
年間活動予定紹介	会長校長挨拶	各学部1年間の振り返り・思い出の写真	卒業生保護者言葉、感想
次学期行事予定	新役員紹介	学校行事(入学式・卒業式・運動会・体育祭・文化祭・写真)の紹介・感想	新入生会員の言葉
次回委員会日時	役員会報告(議事録を兼ねる)	卒業記念号	会員自己紹介
手話学習会、PTA行事案内	役員からのメッセージ	入学式卒業式近日での子供たちの思い	役員挨拶
PTAからのお知らせ	理事会のお知らせ	卒業生修了生へのメッセージ	行事に参加した感想
専門部の活動紹介	運営委員会	高等部卒業生の思い	行事写真とコメント
各委員会活動報告	実行委員会	新転入生・卒業生紹介	行事での子供達の様子
1年間の振り返り	委員会紹介	各学部の活動紹介、感想	特色ある教育活動紹介
出張報告	資源回収額報告	クラブ活動の様子	PTA事業感想
地区研修会ほか報告	文化祭バザー報告	大会成績、生徒の感想・コメント	トピックス
大会報告	イベント情報	学校生活トピック	有志の自由記述文集
紹介・感想		子供の活躍	職員紹介
会員間の交流		挨拶運動表彰	新転任職員紹介挨拶
		教育活動紹介	退職者紹介

2. 各学校PTAの運営について

③ 記事(情報) の工夫

表 12

2⑥3 記事(情報) の内容で工夫しているところ (有効回答数55/57)

活動の様子	分かりやすく	興味を持てるように
幼稚園から高等部までの活動内容・様子 学校行事や校内の様子 地区の交流会やあいさつ運動、バザーなど PTA活動の様子・紹介	視覚的に分かりやすく 分かりやすい内容 読みやすい記事 簡潔に 簡単にまとめる	読んでみたくなる紙面の構成 会員が興味をもてる内容にする 目を引く見出しのデザインを工夫 読みやすいフォントを使用する 保護者の記事をのせている 卒業生の声も届ける
誰にとって？	カラーで見やすくする	卒業生の成長やPTA活動 卒業生の母の思いを入れた 保護者が活躍している様子を載せる
学部の生徒の様子 子供から聞き取りをした	横4段組で読みやすくする 伝わる記事にする	子供や教職員からも記事を集める
注意・配慮	視覚的他	
負担にならないように自由に書く 各学部調整し平均して掲載する 正確に伝える ろうの保護者からのアドバイス 個人情報に気を付ける 次回委員会の予定を周知する PTA活動への協力を求める 学校だよりと内容が重ならない	カラー写真、図、絵等を多く使う 視覚的にも感じられる 写真やコメントを書く人を分ける 写真や文を掲載する 写真を多く掲載する カラー刷り 写真を効果的に配慮する 写真を中心に構成を工夫する 新職員の顔やPTA活動の様子など写真を多く掲載する ランキング形式の記事を入れた	自己紹介が中心で、お互いのことを知る 行事、活動に参加した感想を掲載 多くの人が出てくるようにする 行事を企画した保護者が原稿作成 参加したくなるように工夫する

2. 各学校PTAの運営について

課題と工夫 12 2(6) PTAからの情報提供

課題 一部に負担、PCスキルの差など (33/36)

- ①少人数のため、毎年同じ人に原稿を依頼するようになってしまう。
 - ②活動内容に対する保護者の**負担感が強く**、役員として情報提供について課題がある。
 - ③保護者の方が作るのは負担が大きい。
-
- ①編集会議で集まる機会が多い。**PC操作が可能な方に仕事が集中しやすい。**
 - ②編集でPCスキルに差があり、一部の負担となっている。
-
- ①原稿の作成にあたり、肖像権の確認などが必要になるため、保護者だけに任せることができない
 - ②個人情報の掲載を拒否する保護者があり、掲載する写真等が限られてしまう。
 - ③個人情報の保護
-
- ①業者に依頼しているので**お金がかかる**
 - ②児童・生徒を通じて紙で配布した場合、保護者にわたらないことがある。
 - ③例年、パターンが同じ。外部印刷のため、編集から発行までに時間が掛かる。

工夫 紙面構成、作業、協力など (有効38/40)

- ・ひな型(レイアウト案)を提示し、写真を入れ替えるのみで作成できるようにしている
- ・他校のPTAだよりを見て、内容やレイアウトの参考にしている
- ・パターン化した構成にする。
- ・並置校なので、部門ごとで紙面の広さが偏らないようにしている
- ・簡単に操作できるように、iPadで編集を行っている
- ・原稿をデータで集めるようにしている
- ・行事の写真画像は他の参加者をお願いをしたり、画像を送ってもらったり、協力してもらっている
- ・撮影段階で、写さないようにしているが、活動内容によっては難しい。
- ・文字量を減らして、読みやすくしている。
- ・職員が作成して、業者印刷をしている。
- ・業者に頼むなど少しずつ負担の改善をしている。
- ・先生にご協力いただき、内容を精査。
- ・できるだけ保護者に担当してもらうようにする。
- ・年3回から2回に減らすか検討した
- ・一人に負担がかからないように分担する。
- ・校正作業を紙面で回覧することで、集まる回数を減らす。
- ・A4で1ページにし、記事の内容をPTA活動に厳選することにした。
- ・負担過多とならないような作成システムづくり
- ・PTAだよりなどを通して他校舎や分教室の様子が分かるようにしている。
- ・必要に応じて全校アンケートを行ったり、それに関するPTAだよりを発行したりする
- ・教職員はモノクロのコピーでコストを低減させている。
- ・幼児児童生徒が主役となる行事が多い2学期末の第2号は、両面カラー印刷としている。
- ・聾学校の活動の様子を知ってもらえるように地区に配り、回覧してもらっている。

3. 地区研修会について

(7) 学校（PTA 担当者から）から保護者へのお知らせについて課題と工夫

図 19 学校からのお知らせ手段

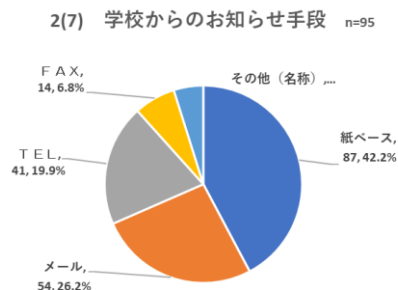


表 13 図 19 のその他

kintone
ホームページ掲載
メールメイト
安心安全メール
一斉連絡用のアプリを使用
学校携帯及びFaircast
緊急時 マチコミmailの活用
長野ろう学校PTA通信

課題と工夫 13 2(7) 学校から保護者へのお知らせについて

課題 速やか・確実な情報提供 (有効回答数15/21)

- ・基本は紙ベースでお知らせし、それを補う形でマ・メールを併用しているが、今回ように臨時休業期間が継続されると連絡手段がマ・メールに頼らざるを得なくなる。
- ・配布物を子供が保護者に渡さず、伝わっていないことがある。
- ・速やかな情報提供。
- ・寄宿舎生の家庭連絡が帰省日(週末)になってしまうこと。
- ・手話通訳が必要な方が当日欠席され、通訳さんが困ることがあった。

工夫 連絡・確認等の補い他 (有効回答数21/24)

- ・確認が取れない家庭は担任から連絡を取ってもらっている。
- ・マ・メール登録が出来ていない家庭には各クラスから電話やFAX等で連絡。
- ・PTA専用の封筒を作り、必ず押印をして返却してもらうようにしている。
- ・生徒も学校安心メールに登録し、連絡漏れをカバーしている。
- ・期限前にメールで確認をする場合がある。
- ・あらかじめ、出欠を確認しておく。
- ・学校の一斉メール及び学校ホームページで保護者に連絡している。
- ・急施の場合は、メール(まちコミメール)を活用
- ・メール連絡網での周知。
- ・一斉メールを利用したアンケートをおこなっている。
- ・必要に応じ学校一斉メールを使う。
- ・一斉メール配信機能及び開封確認機能を利用して連絡漏れを防いでいる
- ・学校用携帯を使用してお知らせをしている
- ・今年度のPTA総会はkintoneやフェアキャストの機能を活用し、学校に集まらない状況の中でも質疑応答や採決を行うことができた。
- ・特に必要なものについては、閲覧期限を設定しておき閲覧を行う
- ・整理された情報の提供と、わかりやすい文書構成

3. 地区研修会について

3. 地区研修会について

(1) 規模 ～期日、会場、参加状況、総経費、謝礼の決め方

表 14 会場

会 場	会議室	体育館	聴覚室	教室
学校 6	10	1	2	3
ホテル 9	その他 5			
会議室1、体育館1、武道館1	食堂・図書室・音楽室・被服室			
センター 2				

表 15 謝礼

講師謝礼の決め方	
公的規定	他に問う
7	4

表 16 参加状況・経費

	参加状況(名)				総経費(円)	経 費			
	主管校 役員	主管校 一般参加者	主管校以外 一般参加者	地区理事	金額	講師謝礼	講師交通費	その他経費	その他(名称)
最大	15	36	57	21	781,500	20,000	20,000	394,662	宿泊費、会場 費等、事務 費、会議費 等、会議費
最小	2	0	1	1	0	0	0	6,800	
平均	7.5	10.6	22.5	6.6	139,413	12,000	7,412	139,887	

課題と工夫 14 3 地区研修会 (1)規模

課題 遠方・宿泊を伴う時の負担他 (有効17/18)

- ・全道的な会議開催地が遠方となるため、各校の**時間的・費用的負担が大きい**。
- ・泊を伴う研修会のため、参加が難しい家庭が多い。
- ・期日を週末に設定したが、両日参加は難しい人が多い。
- ・**経費に限りがある**点(今回は交通費が払えなかった)
- ・参加希望者が少ない。

工夫 規模を確保する取り組みほか (有効11/12)

- ・必要な人数を厳選して参加していただいている。
- ・地区P連研修会の内容を、全道的なPTA大会での分科会に盛り込むことで統合して行う。
- ・総会・研究協議会・懇親会・学校視察などそれぞれの時間帯ごとに参加希望をとることで、部分的にでも参加できるように取り組んだ。
- ・駅に近い会場を選び、交通費・駐車場代をPTAで負担した。
- ・駅から近くの立地の良い会場での実施
- ・企業側(Fujitsu)のAntenna宣伝の出張という形できていただいた。
- ・参加費(交通費や宿泊費も含め)PTA会費から全額負担するようにしている。
- ・できるだけ早い時期に周知する。

3. 地区研修会について

(2) 参加者の主な感想

表 17

3(2) 地区研究会参加者の主な感想 (有効回答数47/50)

学 び

- ・新しい情報を知ることができた
- ・就職後の具体的な話が聞けたのが良かった
- ・他の学校のPTA活動の様子を知ることができよかった
- ・社会自立するために身に付けておくべき力について理解できた
- ・子どものメンタルの強さが必要だと思った
- ・音を検知して振動に変える
- ・しっかり向き合い、一緒に成長していくことがお互いのコミュニケーションとなり親子の信頼となっていくのだと思った
- ・私自身子どもに対する接し方で改めた方がよいところに気づいた
- ・コミュニケーション能力が社会に出て求められる力だとわかった
- ・研究協議の時間が短かく内容が深まらなかった

話し合い

- ・今の悩みや将来のことについて聴覚障害部門での有意義な話し合いができた。
- ・他校の保護者と話せて有意義だった
- ・教師と保護者がともに語り合い理解を深めることが子どもたちの教育へのよい効果につなげることができる
- ・分科会で小グループに分かれて話し合いができた
- ・班ごとの話し合いが盛り上がった
- ・他校の保護者と意見交換ができた
- ・同じ悩みを共有できた
- ・参加型の研修になりよかった

参 考

- ・他のろう学校を見ることができ参考になった
- ・体験に基づいたお話を伺えた
- ・次年度の関ろうPの主管校として参加し参考になった
- ・地域ならではの特色や取組の工夫がみられ、参考になる
- ・聴覚障がいを持つ生徒本人や保護者の方の講演がためになった
- ・成人の聴覚障害の体験談を伺えて勉強になった
- ・できないことはないとチャレンジされる精神や、それを応援されるお母様の関係性がとても素晴らしい

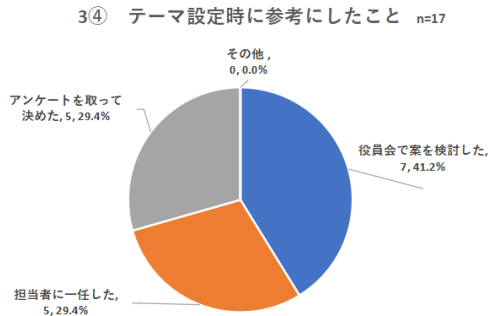
広めたい

- ・学校場でOntennaが広がるとよい

3. 地区研修会について

(3) 主管校として工夫したところ、感想

図 20



課題と工夫 15

3(3) 主管校として工夫したところ、感想

(有効回答数23/24)

工夫 時間の有効活用、相互交流、運営など

- ・まず組織づくりから始めた(役員で構成し企画運営を総括する総務部、具体的な作業をしてもらう保育班、分科会班、宿泊移動班、懇親会班、受付班を組織)。
- ・各班に情報を流して情報共有した(メーリングリストを作って流す、実行委員会で報告する)。
- ・作業したデータについてはクラウド(Googleドライブ)を使って、ファイルを共有することで作業の効率化を図った。
- ・スタッフマニュアルを作成し、スタッフ全員が大会の運営内容を共有できるようにした。
- ・遠方からの参加に配慮し、ランチミーティングにて効率的に交流を深めた。
- ・(主管校を担当した年度は)保護者が話しやすいグループ構成やテーマ設定等
- ・参加者全員に体験してもらえるように時間を確保した。
- ・関響Pと都ろうPと連携して、合同で開催している。
- ・少人数での話し合いを設定。講演は評価が高い講師を招聘。託児の実施。
- ・研究協議のテーマや各校の情報を事前に集約し、配布することで当日の協議内容を深め情報交換をスムーズに行えるようにした。
- ・講演ではなく、お互いが話し合える場の設定。
- ・参加者の相互交流、意見交換の場を設けた。
- ・神戸らしさが伝わるように、震災のお話ができる講師を選定した

感想 より興味を、活性化、便宜を図るほか

- ・時短、ざくばらんな話し合いにつながり好評だった。
- ・多くの話ができて良かった。他のグループの話も聞きたかった。など
- ・話し合いやすい雰囲気を作ることが大切だと思った
- ・実体験ができたことでより興味をもってもらえた。
- ・駅に近い会場を選び、役員の交通費を負担した。
- ・良かったと好評だった。
- ・交通の便の良い会場の確保が難しかった。

(4) テーマを設定する時に参考にしたこと

表 18

(有効回答数4/4)

- ・アンケートをとる際には、地区研修会や全ろうPの大会での過去のテーマを例示、選択肢も設定した。
- ・過去の大会のテーマを参考にした。

3. 地区研修会について

4. P T A活動をしていく上で大切にしていること

(5) テーマを設定した理由

表 19

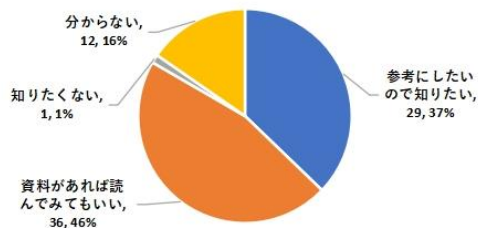
(有効回答数10/10)

- ・Antennaを開発した思いを伝え、その価値を広げる。
- ・神戸らしさが伝わるように震災のお話にすることにした
- ・アンケートや過去の記録から、会員のニーズが高かったものをまとめてテーマとして設定した。
- ・佐賀県出身の難聴で耳鼻科医師になられた先生の体験と、先生を育てられたお母さんの話を聞いてほしかった。
- ・保護者が話し合うのに適したテーマだと考えたから。

(5) 他地区の PTA 研修会

図 21

3(6) 他地区の研修状況について n=78



4. P T A活動をしていく上で大切にしていること

図 22

4.PTA活動をしていく上で大切にしていること

(回答総数232の内容249を15分類したもの)

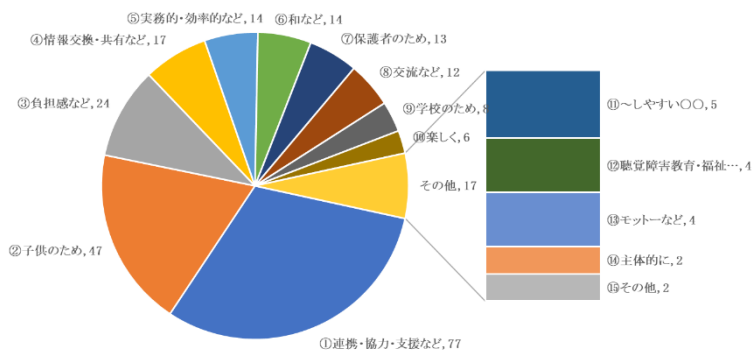


表 20

代表的な意見

- ①保護者と学校の綿密な・連携協力・協働
- ②子どものためになっているか
- ③可能な範囲のことを無理せずに行う
- ④会員間の情報交換、共通理解
- ⑤参観日等と同じ日に活動を計画する
- ⑥会員の和
- ⑦保護者のためになるか
- ⑧会員同士の交流
- ⑨行事、学校活動への参加
- ⑩楽しく活動すること
- ⑪参加しやすい行事作り
- ⑫聴覚障害児教育・福祉の充実
- ⑬できることを・できるときに・できるだけ
- ⑭出来るだけ主体的に活動する
- ⑮身の丈に合ったPTA活動

5. 学校に期待すること
6. 併置によるPTA活動上のメリット

5. 学校に期待すること

表 21

〔有効回答数171/173 ①78/80、②57、③36〕			
交流、連携	有意義・協力・準備	ことば・学力・分かる授業・専門性・自己肯定感・学習環境・進路他	
PTAと学校との連携 PTA活動への積極的な参加 保護者が学ぶ機会を設ける	学校生活をより充実する 学校での子供たちの様子を知る 子どもの様子が分かる	ことばや学力を高める 日本語指導、ことばの獲得	聴覚教育に対する専門性の向上 専門性のさらなる充実 専門性に特化した学校 聴覚障がい教育や特別支援教育
ろう学校らしさ(行事を大切に等)	子供たちとの信頼関係	学力の向上 学力、言語力の育成	
充実した学校生活	学校から子供への直接連絡できる体制づくり	学力や生活力を身に付ける	コミュニケーションの充実
学部・学校を越えた連携と交流	PTA活動に従事している職員への協力	学力や生活する力の向上	子供の気持ちに寄り添える教員 子どもたちの意思疎通
安全で安心な学校	PTA活動に協力的な学校	学力保障 大学進学を目指し、確かな学力を身に付ける	聴覚のことを知りえた教員の配置
地域における聴覚障害者理解の啓発推進	PTAからの学校行事への一部参入		信頼関係の構築 子どものためにという視点で一緒に活動 子供の安心安全
PTA行事にできるだけ職員も参加する 生徒数が増えてほしい	校内では学部を越えて、外部に対しては 地域社会とのつながりを大切にしたい指導 豊富な情報交換による連携の深まり (学校と家庭)	個に応じた指導 一人一人の発達及び特性に合った支援	
情 報	連携を密にしたい 協力体制(設備、金銭面)	分かる授業の提供 実態に合わせた指導 学習や学校行事などの充実	学習環境の整備 学校施設の整備 ICT機器の充実 Wi-Fi環境
情報を早く連絡して 最新の情報の提供 子どもや保護者に有意義な情報 学校の教育活動 学校情報の提供	早く、速やかに 早く連絡して・知らせてほしい 早く、速やかに流す	個性に合った教育 それぞれの障害に対する配慮	先輩・後輩、ロールモデルの活性化 子供の将来、進路についての指導、支援 進路等に関する情報提供及び支援 進路等の様々な情報提供 卒業後のフォローもしっかりする
学校での子どもの様子	スムーズ、こまめに流す 確かさ、適時入れる もつと発信して様々に提供する 最新の	進路指導 各発達段階に応じた指導 生徒学生への適切な学習支援	
情報提供、連絡 変更事項の素早い連絡 保護者との密な情報交換 若い保護者に対するPTAの情報提供	多くの先生方の積極的な関与 自然災害時など	専門性(手話や言語訓練) 手話を使ったコミュニケーション	子どもの成長 健やかな成長に向けた教育の実践
		自己肯定感を高める 子供自身が自分の障害をしっかりと理解する	PTA会員が気兼ねすることなく集まれる 場所を提供する 育友会の部屋の確保
		自ら学ぼうとする子どもの育成 子どもたちの心を育て、社会性を高める 将来の社会参加と自立に必要な力の育成	衛生に係る安全な環境整備、保持

6. 併置によるPTA活動上のメリット

表 22

〔有効回答数52/64 ①31/43、②15、③6〕		
人増加	障害理解、研修	活動他
・会員数の増加	・他の障がいについて理解できる ・保護者は様々な知識を得る	・PTA活動をするときに活気がある ・PTA活動の幅が広がる
経 済	・保護者段階における障がい理解が促進される	・大型バスを使用している視察研修会等が実施できる
・会員増により収入が増えて会計の安定	・様々な障がい、病気になる子ども達に関して知り、視野を広げる	
・負担が多少分散される	・様々な障害のある保護者と連携できる ・様々な障がいへの理解、一緒に育てようという意識が増す	・保護者個人の負担の軽減 ・手話講座にPTA全体で取り組む等
物理的、情報など	・障害種の違う保護者から意見や情報が入手しやすい ・相互の障がいへの理解 ・多様な考え方が集まる ・子供の視野が広がる	・専門部を作ることができた ・役員候補者の確保 ・役員を受ける回数の減少
交 流	・児童生徒の交流、学び合い	
・保護者の交流 ・他の障害種の保護者との交流による ・様々な障害がある幼児児童生徒と日常的に交流できる ・特別支援教育の課題等を共有できる		・福祉就労先の拡充

7. 併置によるPTA活動上の不便さ

7. 併置によるPTA活動上の不便さ

表 23 7. 併置による活動上の不便さ

(有効回答数39/52 ①27/40、②10、③2)

人	障害理解
子どもの状態が様々である	配慮事項や学習環境整備に係るニーズの違い 必要な配慮が大きく異なる
物理的、情報	話し合いがまとまりにくい
コミュニケーション手段の違い	考え方が細分化されてまとまりに欠ける。
子どもの教育ニーズが異なる	PTA活動の具体の擦り合わせが難しい
障害によって、保護者のニーズが異なる	連携しにくいこともある PTA研修のテーマ設定の難しさ
交 流	違う障害の相互理解の難しさ
部門が違うPTA同士の交流が少ない	お互いの障害への理解 話がかみ合わない
活動他	なじむのに時間が掛かる
子供に応じた活動が少なくなる	聴覚部PTAとしての意見が出づらい どちらの障がいを中心とするか、意見が分かれる 多数派意識と少数派意識が顕在化しやすい 子供を待たせたり、先に帰らせたりできる親と、そうでない親の気持ちにすれ違いが生じる 人数の多い部門の意見が優先される傾向がある 単独校で行ってきた行事を継続するのが難しい 要望をまとめるのが難しい 足並みがそろわないことがある 不公平感が出てくる 本校におけるPTA活動の経験の差が大きい 研修等でどちらかの障害に偏ってしまう 障がい種別で保護者のグループができてしまう

8. P T A活動を行う上で困っていること
9. P T A活動を進めていく上で工夫・改善したこと

8. P T A活動を行う上で困っていること

表 24 困っていること

(有効回答数176/179 誰に64/67、何に54、どうして158)

	保護者役員選出	参加率、意識	会議できず	意義、学び	事業継承	その他
何について	役員を引き受けてくれる人が少ない	協力者が少ない	会議が行えないこと		PTA活動の縮小や中止	子どもの数の減少
	役員の担い手が少ない	参加意識	定例会議		PTA行事	会員数の減少
	役員の成り手が少ない				事業・活動の継承	会員人数の少なさ
誰に対して	役員の選任方法				準備、運営について	会員同士のつながり
	委員になりたがらない				新聞製作	
					レクなどのPTA	
どうしてほしい	役員選出	参加者が少ない	仕事がある保護者が多い	PTA会費徴収額の減少		会員数が少ない
		PTA会員への加入拒否				
	役員		役員としての責任感 協調性			
	保護者役員選出	会員	役員教員	PTA、行政	予算経済	その他
誰に対して	会員			PTA機構	予算の上限	コロナウィルス感染防止対策
	ろうの保護者			全ろうP、地区P連		学校
	熱心でない保護者			事務局		文化祭でのそば販売
どうしてほしい	協力的でない保護者					
		会員				
		役員				
	姿勢	具体的やり方	担い手	要望	経済予算	その他
何について	この1年間は活動のために時間をつくる	挨拶を全PTA会員で輪番にする	積極的に役員の担い手になる人が少ない	テレビ会議等を利用して欲しい	遠方の方は往復の時間が大変、交通費の節約になる	学校にお任せするのではなく、
	わりきって協力してほしい	公平に分担したい		集まって気軽に相談する関係づくりができる機会がほしい		参加しない保護者はいつも決まっている
	PTA自体が主体的に活動してほしい	保護者同士の繋がりの中で、次の会長、副会長等を互選する		多くの保護者が教育活動・環境に関心をもち参加して欲しい		
誰に対して	少しでも都合をつけて参加して欲しい	役員を輪番で引き受けて欲しい		ニーズを受けて企画しているので参加してほしい		
	積極的に関わってほしい	やりたくない人、やれない人への割り当ての改善				
	積極的に協力してほしい	マニュアル化				
どうしてほしい	PTAに意見を出す	役員同士のラインでのやり取りは、ニュアンスが伝わりにくい				
	学校にとって必要な活動だと理解してほしい	PC操作できる人が半数以上？必要(媒体の確保)			会費の減少をとめたい	
	関心を持ってほしい	一部の人への負担を減らす			今年度会費の値上げ	
どうしてほしい	研修会に参加してほしい	担当業務の軽減・分散				
	積極的に参加してほしい	経済的なサポートで、各家庭が活動に参画しやすい環境の整備				
		仕事の分担や出席率に不公平感がないように話し合いを深める				
どうしてほしい	各部の代表という意識を持つてほしい					文句を言わないでほしい
	協力を求めている					他学部との連携が難しい
	できることから参加してほしい					

9. P T A活動を進めていく上で工夫・改善したこと

図 23 工夫・改善

9 PTA活動を進めていく上での工夫・改善 n=142

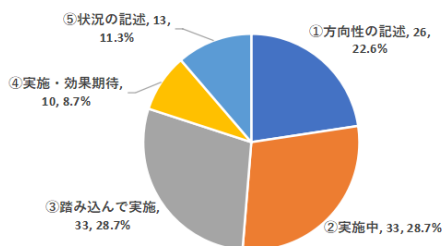


表 25 特徴的な工夫・改善

- ①保護者の負担にならないようにする
効率的で効果的な活動を行う
- ②PTA主催行事を学校行事と同じ日に設定する
役員と実行委員の兼務、役員内での担当兼務
- ③行事の精選等保護者の負担軽減に努めている
専門部の統廃合を行って人員の振り分けを行う
- ④LINEのグループチャットの活用、家でできる仕事は持ち帰らせる
資金集めの工夫(資源回収、イオン黄色いレシートキャンペーンへの参加等)
- ⑤事業内容の見直し
毎年実施するPTA研修会についてアンケートを実施する

9. PTA活動を進めていく上で工夫・改善したこと

表 26 PTA 活動を進めていく上で工夫・改善したこと（有効回答数 142/145、①73/74、②45/46、③24/25）

取組姿勢	方向・行動に移したこと・効果等・現状他	
保護者の負担にならないようにする	学校の行事と同じ日に役員会を設定する	会長の成り手がないとき副会長 3 名で役割にあたった
限られた時間や回数の中で終わらせる	楽しい行事を行う	3年に1回は委員を引き受けてもらうよう新入生に説明している
引継ぎがスムーズにできるようにする	それぞれが少しでも P T A 活動に参加しやすい雰囲気作り	保護者の興味・関心にあった研修等の実施
サポーター制度にして全員が何かに参加・協力できるようにしている。	効率的で効果的な活動を行う	母親が参加しやすい会議時間を設定する
会員への連絡の効率化を図る	学部間の連携を取る	我が子の発表を見る機会の保障
やっていてよかった、楽しかったという感想につながるよう工夫している	誰にでもできる活動、誰にでもなれる役員にする	それぞれの家庭事情に配慮した活動の進め方
できるだけ多くの保護者に参加して頂けるように、楽しい行事を行う	全員で参加・介入して解決・決定する	各自の本業に支障が出るほど時間を拘束しないよう、空き時間に活動していくスタイルにした
時間を設定して資料などを確実に引き継いでもらう何か問題が起きたときは、役員以外の保護者も全員で参加・介入して解決・決定する	会員さんと卒業生保護者とのつなぎ 次年度につながるように、保護者の和を大切ににする。	人数減少により学年委員を廃止した
幼児児童の下校時間に合うように、奉仕活動の時間を設定している	話しやすい雰囲気づくりを心掛けている	行事の精選等保護者の負担軽減に努めている
遠方や仕事をしているなどの各会員の事情により、頻繁には集まらない状況	会長、副会長、学部委員長などが担う役割を大まかに決める	執行部役員の係について見直し、規約改正をした
どんなことが負担となっているか聞き取る	保護者の負担過剰とならないようにする 全員が何かに参加・協力できる	一年間の活動計画を提案し、参加できることを事前に何う 各部門ごとに各障がい特化した活動を企画する 専門部の統廃合を行って人員の振り分けを行う
負担減	P T A 会長の学年をおおよそ決め、事前に見通しをもってもらう PTA活動はできるだけ学校行事に合わせた開催や 帰舎日に合わせた開催にする 参観日や研修会等を同日設定する 行事や式典に P T A 活動を組み合わせる できるだけ活動内容を簡素化し、参加しやすくしている	役員の集まりや行事などを参観日に行う 声を掛け合い、課題を共有し、負担を軽減する 活動を均等にする 相談しながら決める 事務作業の単純化など
特定の役員に作業が集中し負担がかからない	知的、聴覚両部門合同の保護者懇談会を行う	行事に合わせて毎年同じ活動を設定。保護者が見通しをもって活動できるようする
負担が大きくなりすぎないよう工夫する	SNS上で会員間でのやりとりや情報交換を行う	子どもと親が一緒に楽しめる活動を設定する
保護者が学校へ出向く回数を少なくした	P T A 主催行事を学校行事と同じ日に設定する	保護者に興味を持って見てもらえるように、レイアウトを工夫し、写真を多めに使う
保護者送迎の時間に合わせて役員会の時間を設定する	役員会と部門保護者会を同日開催とした 複数人で分担する 役員数のスリム化	できる範囲の参加とした 教員が準備し内容を精選する 仕事の指示をわかりやすく、簡潔に伝える できるだけ相談という形で専門部の活動等に参加した
LINEのグループチャットの活用、家でできる仕事は持ち帰ってする	バザーで手作り品を販売した	会議の際、当番制でペットボトルを準備する仕事をやめた
軽減、保減らす	保護者メールを活用	「らくらくクッキング」や「給食試食会」「茶話会」など、和やかに交流する空間作り
役員と実行委員の兼務、役員内での担当兼務	年間の活動を少なくする	手話学習会、スポーツ活動など、保護者の希望を取り入れて活動を行っている
参観日等に合わせた会の設定	編集会議は紙面のやり取りで進める	Googleドライブ活用し、データ保存・共有
委員会数を削減	教員の P T A 担当者が P T A 活動をサポートする 会議や研修など、1 日に集約した	保護者が協力しながら進めるようになってきた
卒業生親の会との共催講演会の実施	役員・運営委員会数の削減（4回から3回へ） 専門部以外の自由な活動（井戸端手話の会などの取組）を行う	地域の清掃活動への参加 P T A 会員の中で手話が得意な方が手話通訳をしている
進路指導講演会、自立活動、生活指導など学校の企画に参加する	参加しやすい曜日、時間帯を設定する	資金集めの工夫（資源回収、イオン黄色いレシートキャンペーンへの参加等）
効率的に活動が進められる様に教員側が準備し、内容を精選している	土曜日の行事をもって参加しやすくする（年3回） 行事写真を共有する	参加しやすいPTA活動の日程と内容を検討 協力しやすいように活動内容を見直した
資料のフォーマット化、統一	茶話会の設定	活動内容を精選する
活動内容の見直し	茶話会などの学部をこえて交流する場をもつ 規約の改案 （役員数・役員会の持ち方、保護者の参加の仕方の見直し） 外部リソースの活用 （サポーター制度）	事業内容の見直し PTA活動の見直し
経済	内容の質をあまり落とさずに、時期や回数の変更を行う PTA行事への参加を卒業生の保護者にも呼びかける	各部の仕事内容を見直した 毎年実施する P T A 研修会についてアンケートを実施する 年度をまたいで継続して担当する役員がいる
交流の場作り		
負担軽減し、予算を節約した		
親睦を深めるための交流会		
情報共有他		
スムーズに引継ぎする		
学校との連携を損なわない範囲で		
県内唯一であるため、遠方に住む保護者も多い		
共働き家庭がほとんど		

2020 全ろう P 実態調査報告書

～現状と課題を把握するために～

発行者 全国ろう学校PTA連合会
編 集 全国ろう学校PTA連合会
発行日 令和 2 年 10 月 14 日

連絡先 東京都豊島区南大塚 3-43-11
福祉財団ビル 5 階
全国ろう学校PTA連合会事務局
03(3984) 2555

